

企業版ふるさと納税を活用し、子育て施策を推進してまいります



企画課政策調整係
079-435-0356

トーカロ株式会社
(本社所在地：神戸市
溶射を中心とした表
面改質技術のトップ
ランナー企業です。)



企業版ふるさと納税
(地方創生応援税制)
について

トーカロ株式会社様から企業版
ふるさと納税によるご寄附を
いただきました

トーカロ株式会社（本社所在地：神戸市）様から、企業版ふるさと納税として50万円のご寄附をいただきました。トーカロ株式会社様からのご寄附は、今回で4回目です。

ご支援に感謝の意を表するため、感謝状を贈呈しました。

この度の寄附金は、総合戦略における「〈未来を育む〉若い世代の希望をかなえるまちづくり事業」として、町立の幼稚園およびこども園で使用する平均台と一輪車の購入のほか、北部子育て支援センターで使用する乳幼児用すべり台の購入に活用させていただきます。

表敬訪問

全国大会出場など、さまざまな分野で活躍している人が播磨町長を表敬訪問しました。



播磨町少年剣道クラブ

第60回記念全国道場少年剣道大会出場
第42回全国道場対抗剣道大会出場



播磨AC

令和8年度第53回全日本中学校
陸上競技選手権大会出場



東播ナインストリーム

MIZUNO BASEBALL DREAM CUP
Jr.Tournament2026出場



兵庫播磨リトルリーグ

MLB CUP 2026 リトルリーグ野球マイナー部門
ファイナルラウンド in 石巻 出場
2026年度文部科学大臣杯JA共済トーナメント
第60回全日本リトルリーグ野球選手権大会 出場

お詫びと訂正 広報はりま9月号p23 TOWN NEWSで、JICA海外協力隊としてパナマに派遣されることを紹介した記事の中で、お名前の表記を誤って掲載していました。申し訳ありません。正しくは「西田早織さん」です。お詫びして訂正します。企画課秘書広報係☎079-435-0356



写真提供 (宗) 良仙寺

▶「秋来ぬと 目にはさやかに 見えねども 風の音にぞ おどろかれぬる」朝夕の風にわずかに秋の気配を感じるころになりました。長居を決めていた夏もようやくその座を明け渡す決心がついたのでしょうか。昼と夜の天秤が釣り合う秋分を過ぎれば、少しずつお月様の出番も多くなってきますね。気がつけば火花のように咲く彼岸花が道ばたを朱色に彩り、蟬時雨が虫の音の合唱に。「天高く 馬(午)肥ゆる」さて、今年はどんな秋を見つけましょうか。

▶夏の終わりを告げる風物詩のひとつに「地蔵盆」があります。8月24日の早朝、まちのあちこちからお菓子を手にした子どもたちの元気な声が聞こえてきました。私も子どものころ、ふくろにいっぱいもらったのを覚えています。お地蔵さまをきれいに飾り、提灯に明かりを灯して、子どもたちの健やかな成長を願う地域の行事。お地蔵さまを囲んで響く子どもたちの笑い声、顔を合わせる地域の皆さんの笑顔。そこには、子どもたちを地域みんなで見守り、育ててきた温かなつながりがあります。時代とともに暮らしの風景が変わっても、子どもたちの幸せを願う心は変わりません。この伝統を絶やさず守り続けてくださっている地域の方々に心より感謝申し上げます。地蔵盆の灯りが、夏の暁の空を照らすだけでなく、世代を超えて受け継がれる地域の絆を、これからも優しく照らし続けてほしいと思います。

▶今年、創立100周年という大きな節目を迎えられた但陽信用金庫様から、企業版ふるさと納税の制度を活用して500万円のご寄附を賜りました。4年前にも同額のご支援をいただいています。その際は野添あい公園に大型複合遊具を設置する費用として活用しました。これまでの温かいご厚志に改めて深く感謝申し上げます。今回の寄附金は、役場の隣にある向ヶ池公園に健康遊具を設置する費用に充てさせていただきます。毎日の散歩の途中に、子どもと一緒に遊びに行ったついでに、気軽に身体を動かせる場所としてお使いいただければ幸いです。これからも無理なく続けられる健康づくりを支援してまいります。

▶「まちをもっと元気にするために」まちづくりに携わるいろんな団体や住民の皆さまとタウンミーティングをさせていただいています。普段の暮らしの中で感じていること、課題やこれからのまちづくりなど、率直な声をお聞きし、語り合い、考え、力を合わせて、ワンチームはりま2.0で皆さまと共にまちを創っていきます。

播磨町長 佐伯 謙作



保健だより
おいばんきですか？

薬と上手につきあおう

～10月17日から23日は「薬と健康の週間」～

薬は、病気や症状を和らげるために大切なものです。一方で、使い方を間違えると十分な効果が得られず、思わぬ副作用につながることもあります。そこで、薬を正しく使うためのポイントを紹介します。

①用法・用量を守る
薬には「いつ・どのくらい飲むか」が決められています。多く飲めば早く効くわけではなく、副作用の危険が高まることもあります。

「症状がよくなったから」「効いている気がするから」と自分の判断で薬をやめたり、量を変えるのは避けましょう。治療に影響することがあります。変更したいときは医師・薬剤師に相談しましょう。

③お薬手帳は1冊にまとめる
飲んでいる薬をまとめて確認できるため、薬の重複や飲み合わせによる問題を防ぐことができます。

④飲み忘れても2回分をまとめて飲まない

一度に多くの薬を飲むことで、効きすぎたり、副作用が起こりやすくなることがあります。飲み忘れたときの対応は、薬の種類によって異なります。事前に、飲み忘れた時の対応方法を医師や薬剤師に聞いておきましょう。

薬は正しく使ってこそ、効果を十分に発揮します。この機会にご自身やご家族の薬の使い方を見直してみませんか？

その他に薬で気になることは、医師、歯科医師、薬剤師など

健康福祉課健康係
079-435-2611

「保健だより」は2カ月に1回、偶数月に掲載し、健康情報をお届けします。皆さまの健康に役立ててもらえたらと思います。



にご相談ください。